



1	2
	3
	4

1 明治期の製麻工場

現在の北7条東1丁目辺り。レンガ造りの工場が建ち並び異彩を放っていた。

2 工場内部の様子

福井や石川、富山などから働きに来た者も多く、明治後期には千人を超えていた。

3 製麻工場跡

製麻の操業の歴史が染み込んだ赤レンガ工場は、現在は残っていない。

4 現在の工場跡周辺

工場の跡地には、サッポロテイセンボウルや札幌中央郵便局などが建っている。

日本最大の製麻工場として

辺りに建設された。そこでは、ベルギー人コンスタン・オイブレヒトが亜麻の栽培方法や製線技術を指導した。また、琴似村（現在の北区麻生）にも工場を造り、製麻事業の基礎を築いた。

北海道製麻は後に十一の亜麻工場を持つ国内一の製麻企業となり、明治四十年、日本製麻と合併し帝国製麻と名を改める。その後幾多の変遷を経るが、札幌工場は国内最大の製麻工場としてゆるぎない地位を築く。しかし、時代が移り化学繊維が登場すると、その波に押され、昭和四十年ついにその歴史の幕を閉じた。赤レンガ造りの工場など、当時の様子をうかがい知ることのできるものは残っていないが、工場のあった北八条通界隈で、夏に薄紫の可憐な花を咲かせる亜麻を見ると、明治から続いた製麻の歴史がしのばれる。

アマとホップのフラワーロード事業



地域住民や市民グループ、企業などが連携し、北8条通界隈にあった製麻工場やビール工場などの歴史にちなみ、地域ゆかりの植物として亜麻とホップ（ビールの原料）を植えて、沿道を彩り地域に活気を取り戻そうという取り組みを行っている。

〈参考文献〉

北海道亜麻事業七拾周年記念史
帝国製麻株式会社三十年史
新札幌市史

〈写真所蔵〉

北海道大学附属図書館北方資料室
札幌市写真ライブラリー

